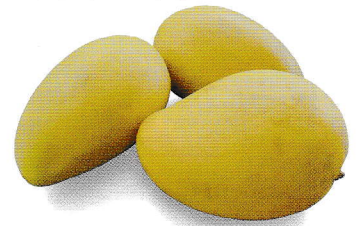


大自然の中で 育った マンゴー。

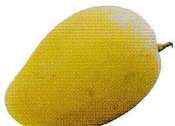
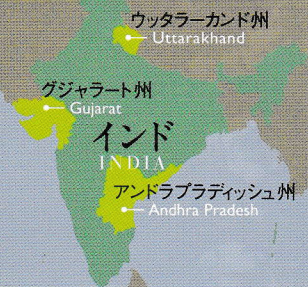
今年もインドからマンゴーが到着しました！

2006年にインド・マンゴーの日本への輸出が解禁されてから9年。
インド・マンゴーの輸入は検疫や農薬検査など様々な障害を乗り越えてなされます。
インド政府と日本政府の間での話し合いのもつれあいで、輸入が中止になった年もありました。
しかし、日本ではインド・マンゴーのファンが増えてきました。
今年入荷するマンゴーはアンドラプラディッシュ州 (Andhra pradesh) からバンガンパリ種、
グジャラート州 (Gujarat) からケサル種、
そしてウッタラーカンド州 (Uttarakhand) からはチョウサ種です。
インドを代表するマンゴーにふさわしく、香り高く、みずみずしい、
そして気品のある甘さが特徴です！

香り高く、
みずみずしい、
そして
気品のある甘さが
特徴です。



Benganpalli, Kesar, Chousa Mango from INDIA



バンガンパリ種
Benganpalli



ケサル種
Kesar



チョウサ種
Chousa

1

全体的に黄色になり、
さわって柔らかくなったら
食べごろです。
冷蔵庫で冷やしてください。

マンゴー
の
食べ方

2

果実の真ん中にある
種を避けるように
片面ずつ3枚に切ります。

種

3

切った両面のマンゴーは
スプーンですくって
召し上がってください。



4

種のまわりについた果肉も
とっても美味しいので、
かぶりついて
召し上がってください。

販売者



Makaibari
J A P A N

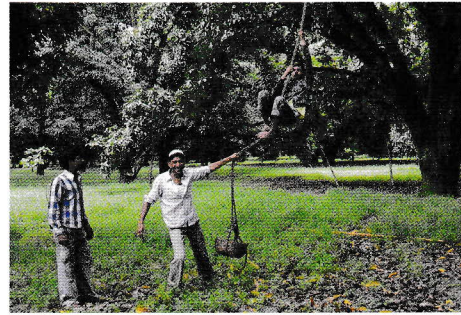
有限会社マカイバリジャパン
〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北5-17-12
tel:03-3338-6718/6719 fax:03-3338-6732

遠いインドからトラック→飛行機→日本へと到着したマンゴーです。
品質には万全の注意を払っていますが、多少の傷などがつく可能性もございます。
酷いマンゴーが入っていた場合にはご連絡をいただけましたら幸いです。

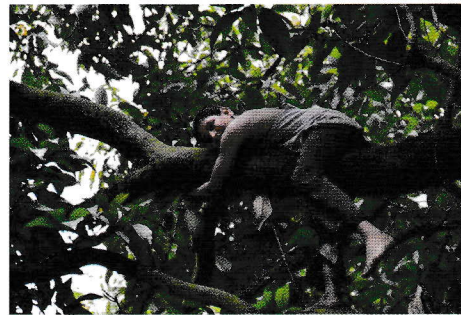
チョウサ農園 Chousa

チョウサ農園はインド北部ウッタラーカンド州にあります。背後にはヒマラヤ山脈が連なり、ヒマラヤ山脈の裾野の地域に農園はあります。この農園は100年以上前にジャングルを切り開き、マンゴー農園として今日にいたります。摘み取りの時期3ヵ月間（6～8月）だけオーナーが農園で生活をしています。広大な農園では、剪定もせずに自然のままにしているので、木の高さが5メートル以上もあります。マンゴーの摘み取り時期には250人以上の男性が働きます。三人一組で、籠を持って木に登り、摘み取った途中で受け取る男性と下で受け取る男性をチームワークで行うのです。

マカイバリジャパンのスタッフが チョウサ農園を 訪問しました！



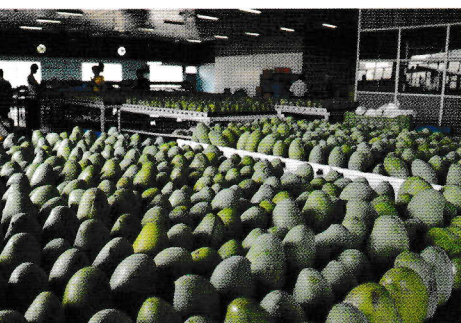
収穫は三人一組でおこないます。



木に登ってマンゴーをとる子ども。

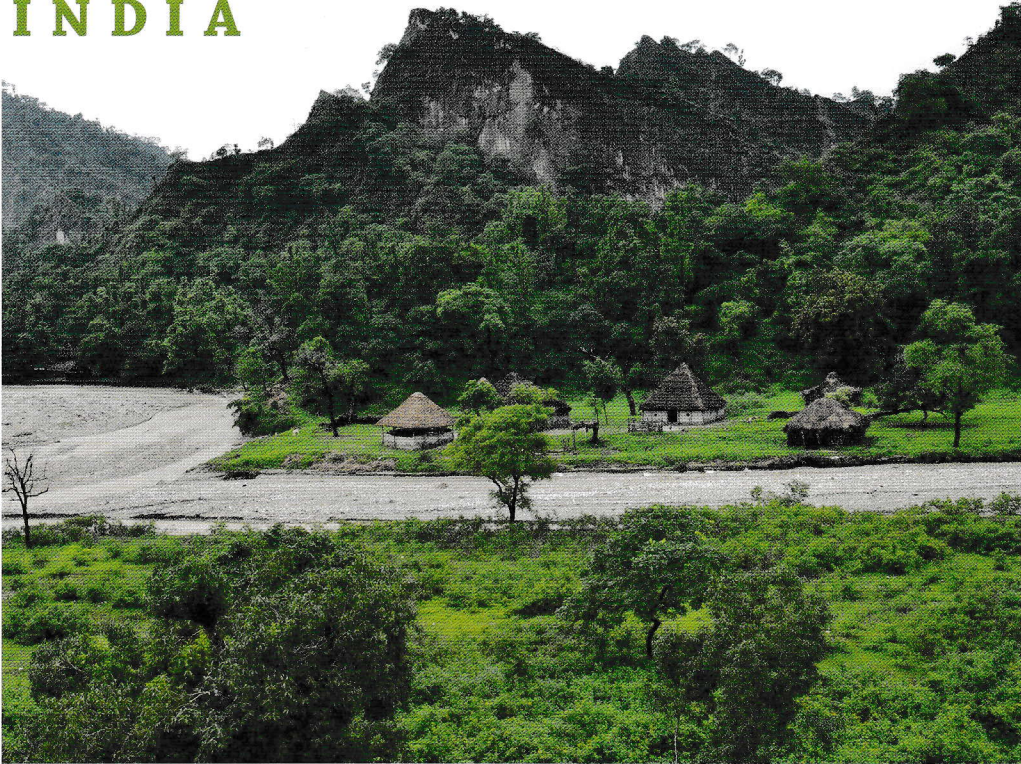


野生の猿もマンゴーを食べます。



VHTの前のマンゴー。

Mango from INDIA



マンゴー農園の近くにある村。



こんなにたくさんのマンゴーがとれました！



5メートル以上もあるマンゴーの木。



熱処理(VHT)の工場

Vapor Heat Treatment

インドから日本へマンゴーを輸出するときは、マンゴーにつくミバエなどの害虫の幼虫や卵を殺滅処理することが義務づけられています。出荷前にマンゴーをVHTの機械の中に入れ、果実が高温障害にならない範囲内で、内部温度を上昇させて害虫を殺滅させます。日本からは検疫官が立ち会って、最終チェックを行います。厳しい検疫チェックで合格したマンゴーだけが日本に届きます。

VHTの機械。

日本の検疫官によって厳しくチェックを受けます。

